

8 大富地域まちづくり構想

8-1 地域の現状

■概況

本地域は、焼津市の中央西部に位置し、面積は約 895ha で地域の約 13%を占めています。昭和 30 年に大富村から焼津市に編入されました。

地域内には栃山川などの特徴ある河川や黒石川沿いの桜並木、まとまりのある農地などの自然的要素があり、それらとともに集落が存在し田園風景を形成しています。

また、市立総合病院や焼津警察署、自然生態観察公園などの公共施設や静岡福祉大学などの文教施設があり、また今後、(都)志太中央幹線や、(都)小川島田幹線などの幹線道路の整備が期待されています。

大富地域 位置図



■人口の推移

平成 27 年における本地域の人口は 22,616 人、世帯数は 8,310 世帯となっており、経年的に人口は緩やかな減少傾向に、世帯数は緩やかな増加傾向にあります。

年齢 3 区分別人口割合は、15 歳未満及び 15 歳～65 歳未満が緩やかな減少傾向に、65 歳以上が増加傾向にあります。平成 27 年における 65 歳以上人口の割合は 26.4%で、市全体とほぼ同じ高齢化率となっています。

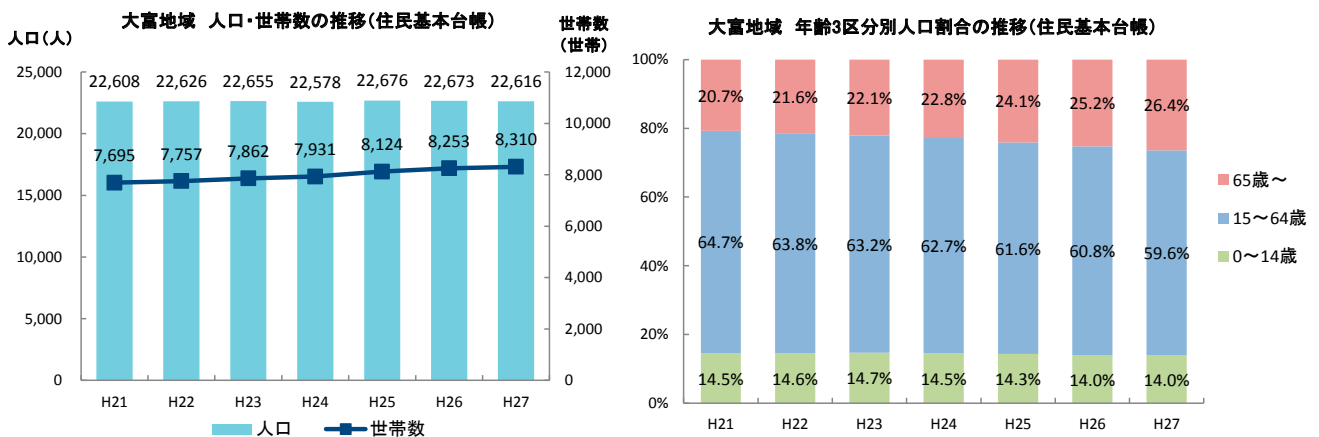


図. 大富地域における人口・世帯数及び年齢 3 区分別人口割合の推移
(住民基本台帳より：H24 までは日本人のみ、H25 以降は外国人を含む)

8-2 地域の将来像

大富地域の将来像

- 安全で、安心して子育てができるまち
- 多彩な地域資源を活かした、活力あふれるまち
- 人と人とのつながりを大切にした、健康で楽しく暮らせるまち

8-3 地域のまちづくりの課題

◎自然環境と調和した良好な生活環境づくり

- ・既存集落地では、周辺の緑豊かな自然環境や田園風景と調和した住環境を保全・創出するとともに、地域コミュニティの維持と地域の活性化が必要です。
- ・高齢者の増加に対応するため、公共交通などによる日常生活を支える移動手段の充実を図る必要があります。また、自転車と自動車が交錯して危険な生活道路があるため、子どもや高齢者が安全・安心に通行できる歩行者空間を創出する必要があります。
- ・遊休農地等の未利用地については、周辺の自然環境や自然景観を損なうことがないように、今後の有効活用方策等について検討する必要があります。
- ・市民や地域住民の交流を支えとともに、市内外の連携を促進するための道路交通機能の強化を図る必要があります。

◎自然資源の保全と有効活用

- ・栃山川、木屋川、黒石川などの地域を流れる河川と、栃山川自然生態観察公園や栃山川緑地公園をはじめとする地域の緑の拠点を守るとともに、地域住民の憩いの場、交流の場として効果的に活用する必要があります。
- ・まとまりのある優良農地は地域の貴重な緑の財産となっていることから、農地としての利用を継続するための取組と併せ、緑の風景を地域住民のやすらぎの場として守り、次の世代に引き継いでいくことが必要です。
- ・地域の自然や歴史・文化を守るため、地域住民が主体となった取組が必要です。

◎地域の活力向上と、大雨などの自然災害への備えの充実

- ・地域活動の中心地である大富公民館などを有効活用したまちづくりを進める必要があります。
- ・大雨時の河川氾濫・道路冠水等を防止するため、栃山川、木屋川、黒石川などの地域を流れる河川とその流域について、総合的な治水対策を進める必要があります。
- ・地震や津波などの自然災害が発生した場合に備え、既存の避難場所や避難所の保全や維持管理を図るとともに、より多くの避難者の受け入れに対応する必要があります。

8-4 地域のまちづくり方針

① 良好な住環境の創出と、幹線道路沿道などを活用した交流を創出する まちづくり

- ・生活交流拠点である市域中部周辺においては、公共交通の結節点に位置するメリットを活かし、生活利便施設の立地誘導を図ります。また、地域住民の日常の足の確保と利便性向上のため、利用需要に応じた公共交通ネットワークを検討します。
- ・市街化調整区域の既存集落地においては、周辺の自然環境との調和・共生に留意しながら、住環境の維持・向上を図るとともに、安心して子どもを産み育てられ、高齢者が地域において安全・安心で快適な生活を営むことができる環境づくりに努めます。
- ・市街化調整区域に点在する遊休農地や養鰻池跡地などの低未利用地の有効活用により、地域の活性化を促進します。また、国道150号の沿道について、沿道サービス施設等、幹線道路の特性を活かすことのできる施設の立地を誘導します。
- ・隣接する藤枝市との連携を強化するとともに、地域住民の生活交流を支えるため、幹線道路である（都）小川島田幹線などの都市計画道路の整備を促進するとともに、子どもから高齢者まで誰もが、安全・安心・快適に通行できる空間づくりに努めます。



（都）小川島田幹線

② 栃山川などの緑豊かな自然資源を活かした景観まちづくり

- ・栃山川や木屋川などの地域ならではの自然資源を結ぶ、豊かな水と緑を市民が身近に感じることができるまちづくりを進めます。
- ・多様な動植物を観察することができる栃山川自然生態観察公園や子どもから高齢者まで誰もが自然と親しむことができる栃山川緑地公園を保全し、自然環境学習や市民の憩いの場として活用します。



栃山川と自然生態観察公園

- ・地域に広がるまとまった優良農地による田園風景などの自然景観を保全するため、地域独自の景観まちづくりを推進するとともに、ボランティアなどの地域住民が主体となった環境美化活動を推進します。

③大富公民館などを活用した地域住民主体の活力あるまちづくりと、 「向こう3軒両隣」の思想に基づく防災・減災まちづくり

- ・ 大富公民館などの地域活動の中心地にある既存施設を有効活用して、子どもや高齢者まで誰もが、集い、憩うことのできる場づくりを行うなど、地域特性を活かした、地域住民主体の活力あるまちづくりを進めます。また、災害時には地域住民の防災拠点として有効活用を図ります。



大富公民館

- ・ 台風や集中豪雨などに起因する水害の防止・軽減を図るため、栃山川、木屋川、黒石川などでは、河川の特性を踏まえた整備と維持管理を進めるとともに、総合的な治水対策を推進します。
- ・ 地域の子どもから高齢者まで誰もが、普及・啓発活動や防災教育等を通じて、防災意識を高揚させるとともに、災害ボランティア活動への参画を促進し、地域における防災活動を積極的に支援します。また、「向こう3軒両隣」の思想に基づき、地域が地域を守る、共助ネットワークの仕組みづくりを支援します。

